

デジカメで自然観察2

科学館のまわりの冬の生き物

(Jan. 04, 2007)

科学館では、2階常設展示場の雑木林ジオラマと窓の外の景色が一体になるように木を植えてあります。クヌギ、コナラ、アベマキなどの背の高い落葉樹が葉を落とすと、窓の外が明るくなり、見通しもよくなります。木々の間には餌台も設置しているので、鳥たちが集まってくる様子を室内から楽しめます。

餌台の常連は、ヤマガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、アオジ、キジバトなどです。メジロ、ウグイス、ジョウビタキ、コゲラ、キセキレイなども見かけますが、餌台の餌は好みではないようです。これらのうち、ジョウビタキは冬鳥です。



写真1 ヤマガラ

ヒマワリの殻を上手にむいて食べます。翼は青灰色、首の後ろと腹は茶色で、他の鳥と間違えることはないでしょう。



写真2 メジロ

小さな木の実をくわえています。きれいなオリーブ色と目のまわりの白い縁取りが目印です。



写真3 ジョウビタキ

オスは灰色の頭、黒い背、オレンジ色の腹と、カラフルですが、メスはベージュ系の地味な色です。

キセキレイは縄張り意識が強く、車のミラーやガラスに映った自分の姿に攻撃を仕掛けます(写真4)。車だけでなく、展示室の窓に向かって攻撃することもありました。

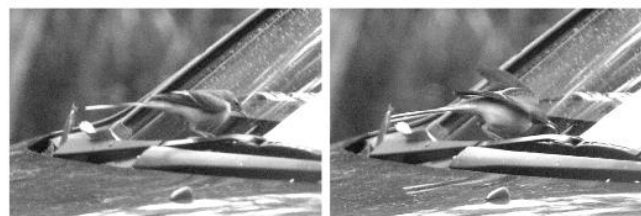


写真4 キセキレイの縄張り争い

左：ガラスに映った自分の姿を見て「あんた誰？」
右：(2秒後) 生意気なやつだ、突っついてやれ!

不幸な事故もありました。平成18年12月10日の朝、キジバトを追いかけて回っていたハイタカが、2階展示室のガラスに衝突して死んでしまったのです（写真5）。これまでも野鳥が衝突死することはありましたが、周囲の木々がガラスに映り、林が続いていると勘違いしてしまうのかもしれません。畑にぶら下げる鳥除けの風船をまねて、目玉マークを窓に貼っているのですが、効き目はほとんどありません。ブラインドを少し下げた方がずっと効果的です。



写真5 衝突死したハイタカ
(平成18年12月10日)

なお、追われていたキジバトは、羽が飛び散っていたものの、どうにか逃げおおせたようです。

ガラスに衝突しても、軽症で済むこともあります。1年前の話ですが、暗くなってから事務所の窓に何かが衝突しました。物音に驚いて外に出てみると、見慣れない鳥が落ちていました（写真6）。最初は動かなかったのですが、大きな目をパチクリした後、おぼつかない足取りで藪の中に消えていきました。凶鑑で調べたところ、ヤマシギでした。ハイタカやヤマシギは、この辺りでは、冬になると姿を見せるそうです。



写真6 ヤマシギ
(平成17年12月24日)

科学館前の上池には、カワセミもやってきます。昨冬は水に飛び込んで魚を捕る様子を何度も見ましたが、今冬は池の水位が高いため餌の居場所が変わったのか、杭に止まっている姿しか見られませんでした（写真7）。



写真7 カワセミ

カラーでないのが残念です。

じっと動かず、冬を耐える生き物もいます。市蝶ジャコウアゲハは、秋に蛹（さなぎ）になり越冬します。その姿が播州皿屋敷に出てくる後ろ手に縛られたお菊のようだというので、お菊虫ともいいます（写真8）。鳥や寄生蜂に見つからず、春に無事羽化してくれるといいのですが。



写真8 お菊虫

ジャコウアゲハの蛹です。

徳重哲哉（姫路科学館プラネタリウム・天文担当）

《〒671-2222 姫路市青山1470番地15 姫路科学館発行 Tel. 079-267-3961》